

第15回 新聞感想文コンクール

茨城新聞社と茨城新聞を取り扱う新聞販売店で組織する茨城新聞茨城会（塩田正信会長）が主催する「第15回新聞感想文コンクール」の入賞者52人が決まり、表彰式が明日、水戸市笠原町の茨城県開発公社ビル4階会議室で行われる。

この紙面では全入賞者の名前と、最高賞の文部科学大臣賞、茨城県知事賞を受賞した8人の作品を掲載する（敬称略）。

コンクールは子どもたちが新聞を読み、感想を書くことで地域や社会に関心を広げ、読解力や表現力を養うことを目的に、毎年開催している。

応募総数は2308点。小学校1～3年の部に319点、小学校4～6年の部に605点、中学生の部に748点、高校生の部に636点の応募があった。

取り組みが顕著な学校に送られる優秀学校賞には、つくば市立高崎中（第15回記念学校賞）、坂東市立長須小、つくば市立竹園西小、県立鉾田一高附属中、筑西市立関城西小の5校が選ばれた。



文部科学大臣賞

小学生1～3年生の部



つくば市立竹園西小学校3年 保田 伶

この記事には、南海トラフ地しんりん時じょうぼうが出たので、地しんへのそなえを進めましようと思てあった。ぼくの学校では、ひなん訓練や防災士さんの防災学習があり、家には防災バッグがあるからそなえは大丈夫だと思ていた。でも、ぼくは地しんでい電やだん水になる生活は想像できない。そこで、家族と相談して休みの日に一日電気や水道を使わない生活してみようと思てた。

まずこまったのはトイレだ。てい電やだん水になつたらいつものトイレが使えない。でも他は風呂にこまえることはなかった。初めて食べるひじょう食にワクワクしたし、ラジオのチューニングにむ中になつた。夕方になると部屋が暗くなつて、だんだん心細くなつていった。かい中電灯やランタンで明かりを三つ作つたが、まだ暗くて、明かりはもっとひつようだと思てた。夜は不安にならないうように

小学校4～6年生の部

森のためにできること



常陸太田市立太田小学校5年 大和田 悠真

「林業は家づくりの第1走者」だ。1枚の新聞写真が、ぼくの記おくを思い起こしてくれた。それは、大子町の中学生が、林業体験をした新聞記事だった。

ぼくは、住んでいる常陸太田市で、家族と建築事務所の人たちといっしょに、家づくりで使う木のぼつさい体験をしたことがある。その木は、樹齢100年以上の1本のヒノキだった。木は森で長い時を経て育ち、第1走者である林業家によって切り出される。それを山から運び出し、製材所で丸太が木材へと加工される。そして、それを大工さんがのみでけずり、組み立てる。1本の木が、森からリレーするようにぼくの家につながっていた。

ぼくは、そのパトーン、ヒノキでつくった机で勉強をしている。新聞記事を読みながら、「ぼくにできる

中学生の部



つくば市立高崎中学校8年 岡田 莉奈

ルールを守って動物も守る!!

新聞をめくっていた、鳥好きの私の目を引いたのは、片方の翼が垂れ下がり、座りこんでいるオジロワシの写真だった。私は、この「鳥類の鉛中毒をなくせ」という記事を見るまで、鉛中毒というものを知らなかった。「鳥は鉛が好きなの？」と思ていたぐらいだ。ましてや人間ではなく鳥類が彼らの生活に無関係なはずの「鉛」中毒になつてしまつとは。

記事によると、自然豊かな北海道釧路市で2023年2月に鉛中毒が原因でオジロワシが亡くなつてしまつたという。オジロワシは国の天然記念物で、絶滅危惧種だ。そして、このような猛禽類が鉛中毒になる主な原因は、規制が

新聞をめくっていた、鳥好きの私の目を引いたのは、片方の翼が垂れ下がり、座りこんでいるオジロワシの写真だった。私は、この「鳥類の鉛中毒をなくせ」という記事を見るまで、鉛中毒というものを知らなかった。「鳥は鉛が好きなの？」と思ていたぐらいだ。ましてや人間ではなく鳥類が彼らの生活に無関係なはずの「鉛」中毒になつてしまつとは。

記事によると、自然豊かな北海道釧路市で2023年2月に鉛中毒が原因でオジロワシが亡くなつてしまつたという。オジロワシは国の天然記念物で、絶滅危惧種だ。そして、このような猛禽類が鉛中毒になる主な原因は、規制が

高校生の部

防災かるた



県立鉾田第一高等学校3年 藤田 葵

日本にきた地震がない国で育つた外国人は激しい揺れや津波に遭遇したらどのような行動を取ればよいかわからない人が大半だろう。突然の揺れや停電でパニックになつてしまつたり、テレビやラジオで地震速報が流れてきてても普段聞き慣れない難しい日本語に更に混乱してしまふ。また、事前にもこのような準備をしておけばよいのかわからず不安に思っている外国人が多いだろう。

近頃の日本では地震が多発しており被害に苦しんでいる人達が多い。テレビなどでは、地震などの災害について取り上げた番組が増えていて、私も防災の番組を見て、災害にあった時のために防災グッズや避難経路を確認しておこう

う。もし、あなたが好きな物を食べ、このような症状に苦しむ、死んでしまつたら。考えるだけで恐ろしく、理不尽なことが今、全国で起きている。さらに驚いたのは、水鳥も鉛の中毒となつてしまつていることだ。水鳥の習性である「消化を助けるために小石を飲む」ということが鉛中毒にさせてしまつていいる。なんと水鳥は鉛を小石と間違えて飲み込んでしまふという。先程の、汚染されたシカの肉を食べた猛禽類よりも、小さい体の生物が、鉛弾を直接摂取してしまふのだから、とても苦しいに違いない。私は、川に鉛弾が落ちていいることにも衝撃を受けた。「環境汚染をなくす取り組み」ときくと、ゴミ拾いやビニール袋の削減ぐらいしか思いつかないが、このようなことが起きているのだから「川から鉛弾などの生物にとつて危険なものをな

たそう。この水谷さんの「やさしいにほんごでぼうさいかるた」は外国人に防災意識を高めてもらうために、簡単な日本語で書かれており、外国人には難しい防災用語も優しく解説されている上に避難時の心構えや給水タンクの存在、避難訓練の参加の呼びかけまで幅広い役立つ情報を学べることができ、これがあれば外国人が日本に来た時の不安が大幅に減るだろうし、子供連れの外国人の家族も楽しく子供達に身を守る方法を教えることができ、一石二鳥なとても万能なものだと思つた。さらに、実際に水谷さんが活動されている通り、日本の小中学生の防災知識定着にも活用されている。日本人でも防災について学ぶ機会が少なかつたり、頭のどこかで自分は大丈夫だろうと思つてしまつている人が少なくないだろう。このかるたがあれば学校の授業や家庭で手軽に誰で



- 【文部科学大臣賞】
保田 伶 (つくば市立竹園西小学校3年)
大和田 悠真 (常陸太田市立太田小学校5年)
岡田 莉奈 (つくば市立高崎中学校8年)
藤田 葵 (県立鉾田第一高等学校3年)
- 【茨城県知事賞】
松本 莉音 (筑西市立五所小学校2年)
川村 彩月 (筑西市立関城西小学校6年)
山本 彩瑛 (つくば市立竹園東中学校7年)
- 大槻 朋佳 (県立水戸第二高等学校2年)
【茨城県教育長賞】
中川 貴晴 (筑西市立五所小学校1年)
大塚 理央 (阿見町立本郷小学校6年)
小國 丈太郎 (県立水戸第一高等学校附属中学校1年)
黒沢 優愛 (県立水戸第二高等学校2年)
- 【茨城新聞社長賞】
増田 和雅 (江戸川学園取手小学校2年)
須藤 美里 (筑西市立関城西小学校5年)
- 磯 愛菜 (水戸市立内原中学校1年)
青木 莉愛 (若潮日本大学高等学校1年)
【茨城新聞茨城会長賞】
下夕村 聖輝 (つくば市立竹園西小2年)
寺門 凜華 (筑西市立下龍小5年)
水口 友裕 (茨城大学教育学部附属中1年)
七五三掛 愛莉 (県立古河中等教育学校4年)
- 【茨城新聞教育研究会会長賞】
鏡 樹生 (筑西市立関城西小6年)
石橋 結暉 (県立鉾田第一高等学校附属中学校3年)
野上千夏 (県立水戸第二高等学校2年)
- 【茨城県新聞教育研究会会長賞】
萩 慧子 (つくば市立竹園西小学校3年)
宮川 千桜子 (つくば市立竹園西小学校6年)
加藤 侑奈 (茨城キリスト教学園中学校1年)
田嶋 咲里那 (若潮日本大学高等学校1年)
- 【茨城県PTA連絡協議会長賞】
栗原 歩 (つくばみらい市立富士見ヶ丘小学校1年)
濱田 真子 (つくば市立竹園西小学校6年)
本多 桃華 (県立古河中等教育学校3年)
- 【茨城県高等学校PTA連合会長賞】
永塚 理瑚 (県立古河中等教育学校4年)
- 【優秀賞】
辻中 紗月 (つくば市立竹園西小学校3年)
木野内 咲瑠 (水戸市立浜田小学校2年)

入賞者

講評

情報を正しく選択し 適切に判断する力を



茨城県新聞教育研究会長 水戸市内立原中学校長 折本 正巳

第15回新聞感想文コンクールは、応募作品数2,308点で、どれも優れた作品ばかりでした。全体を通して良かったことは、様々な分野の記事が選択されていたこと、記事について調べたり身近な人と意見交換したりしていたこと、記事についてよく考え、自分の生き方や社会の在り方について考えていることなどです。部門ごとに見てみると、小学校1〜3年生の部では、身近な生活や自分の興味関心と関連した記事を選び、感じたことや考えたことを素直に表現していました。記事を読みながら、調べたり行動したりして学びを深めていた様子も伺えました。瑞々しい感性が素晴らしいと感じました。小学校4〜6年生の部は、各自の問題意識を基に記事を選んでいました。記事を読みながら、既習事項や自分の体験を想起し、記事の内容と比較しながら思考を深めていました。自分なりに考えたことを今後の生活に生かそうとしているので感心しました。中学生の部は、記事選択や内容理解を通して、広く社会全体に視野が広がっていった様子も伺えました。社会的な課題について、他との関連や因果関係を考慮しながら適切に判断し、今後の社会の進むべき方向を提言したり、自分の生き方を見つめ直したりしていました。高校生の部は、選択する記事が多岐にわたっていました。国際的視野から記事を捉え、歴史的

背景を念頭に置きながら考察したものが多く、自分事として真剣に考える姿勢もよく伝わりました。主権者意識の高まりとともに、これからの社会を担う人材としての頼もしさを感じました。新聞感想文には、たくさんの学びがあります。記事を読むことで、教科書に載っていない実社会の様子を知ることができます。複数の記事と比較しながら読むことは、多面的・多角的な見方・考え方に

ながら、記事に登場する人物や記事を書いた記者の立場に立って読むことは、人の生き方を考える良い機会となります。感想文を書くということは、自分の考えを練り上げ、表現することです。「この記事を根拠に自分はこう考える」「この表現の方が自分の思いが伝わるだろう」など、心の中のもう一人の自分と対話しながらかくことで、思考力が高まり表現力も向上します。さらに、選んだ記事や感想文

について家族や友達、先生方などと語り合えば、人間関係は深まり、新たな発見も生まれます。これからの社会は、今まで以上に、情報を正しく選択し適切に判断する力が必要です。また、自分の思いを正しく伝え、他者と協働しながら新しい価値を創造していく力も求められます。新聞感想文を通してこれらの力を高め、よりよい未来を拓いてほしいと思います。

茨城県新聞教育研究会長 水戸市内立原中学校長 折本 正巳

茨城県知事賞

小学校1〜3年生の部

アンパンマンのよひに だれかのやくに



筑西市立五所小学校2年 松本莉緒

アンパンマンのように「自分もだれかをたすけた」と4さいから、びよるうやじこなどで、かみの毛をうしなつた子どもたちにかみの毛をきぶするヘアドネーションをつづけている小学生のきじをよみました。

わたしは、小さいころからびよるうやじこというゆめがあります。なぜびよるうやじこになりたいかというと、おばあちゃんかびよるうやじこをきぶるヘアドネーションをつづけている小学生のきじをよみました。

小学校4〜6年生の部

夢が広がる筑西温泉



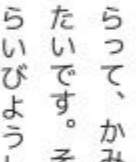
筑西市立関城西小学校6年 川村彩月

私は温泉女子。温泉の湯につかり、美肌をめざしている。そんな私に、この記事を見のがすわけない。と言っても、最初に記事を見つけたのは温泉女子としての師匠、私のお母さんだけだ。

「筑西2カ所目温泉」筑西のテーマパーク「ザ・ヒロサワシティ」の敷地内で温泉が湧出したという。湯温は約40度で、かけ流しでもできる程度の量。気になる泉質は分析中。塩化物泉だったから美肌の湯だね。

お父さんとお姉ちゃんも、お母さんと私に影響されていつの間にか温泉好きになった。私たち家族のお気に入りの温泉。1年に何度も行っちゃおう。伊香保、水上、そして草津よいとこ。一度はおいで。

髪寄付7年続ける



2024年7月24日付茨城新聞

このきじをよんで、わたしは今、かみ

私の町もみんないい顔になれるような温泉地になれるといいな。筑西市のキャラクター「ちっくん」の雑貨屋さん、名物グルメやスイーツを楽しめるお店が並ぶ。温泉施設には、いろいろなテーマの湯舟がある。小さい子どもも喜ぶ。おじさんたちにはマッサージ器も用意しなくちゃ。映画も使えなくちゃ。映えるフォトスポットも必要。ヘアケアやおしゃれができるコーナーも欲しいな。

ああ、作文を書いていたら、今すぐ温泉に入りたくなつた。「筑西温泉」なんかい感じじゃん。みんな、筑西市においでよ。

あ、お母さんとお姉ちゃんも、お母さんと私に影響されていつの間にか温泉好きになった。私たち家族のお気に入りの温泉。1年に何度も行っちゃおう。伊香保、水上、そして草津よいとこ。一度はおいで。

あ、お母さんとお姉ちゃんも、お母さんと私に影響されていつの間にか温泉好きになった。私たち家族のお気に入りの温泉。1年に何度も行っちゃおう。伊香保、水上、そして草津よいとこ。一度はおいで。

中学生の部

素直に「助けて」と言うために



つくば市立竹園東中学校7年 山本彩瑛

困っている時に「助けて」と言えず、自分で何とかしようとして苦しくなってしまううちに、そんな経験は誰にでもあると思います。私も、何か困ったことがあっても、人に頼ることができず、我慢してしまうことがよくあります。

この記事を書いた斎藤章佳さんは、精神保健福祉士としてクリニックで働いており、アルコールや薬物などの依存症問題に携わっています。私と同じく人に頼ることが苦手な斎藤さんは、仕事で困った時にSOSが出せず、自分で

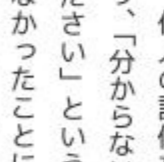
この経験をを通して、斎藤さんは、他人の評価を気にするあまり、「分からないので教えてください」という言葉が出てこなかったことに気づきました。それは、自分の中にある、なんでも一人でできるという「傲慢さ」が原因で、謙虚さが足りなかったことに思い至ったそうです。そして、それに気づかせてくれたのは、アルコール依存症の患者さんたちが、お互いに心を開いて、話を聞き合っている姿でした。

この経験をを通して、斎藤さんは、他人の評価を気にするあまり、「分からないので教えてください」という言葉が出てこなかったことに気づきました。それは、自分の中にある、なんでも一人でできるという「傲慢さ」が原因で、謙虚さが足りなかったことに思い至ったそうです。そして、それに気づかせてくれたのは、アルコール依存症の患者さんたちが、お互いに心を開いて、話を聞き合っている姿でした。

この経験をを通して、斎藤さんは、他人の評価を気にするあまり、「分からないので教えてください」という言葉が出てこなかったことに気づきました。それは、自分の中にある、なんでも一人でできるという「傲慢さ」が原因で、謙虚さが足りなかったことに思い至ったそうです。そして、それに気づかせてくれたのは、アルコール依存症の患者さんたちが、お互いに心を開いて、話を聞き合っている姿でした。

高校生の部

SNSの付き合い方



県立水戸第二高等学校2年 大槻朋佳

今年の夏は、東京オリンピックから3年ぶりにパリでオリンピックが開催された。全力をかけてそれぞれの競技で戦うアスリートたちの姿は、とても輝いており、多くの人々の心を打つたことだろう。私もテレビの前で一喜一憂しながら競技の様子を見守り、たくさん感動をもらった。長い間オリンピックを目撃に努力し続けてきた選手たちは尊敬すべき存在である。

この経験をを通して、斎藤さんは、他人の評価を気にするあまり、「分からないので教えてください」という言葉が出てこなかったことに気づきました。それは、自分の中にある、なんでも一人でできるという「傲慢さ」が原因で、謙虚さが足りなかったことに思い至ったそうです。そして、それに気づかせてくれたのは、アルコール依存症の患者さんたちが、お互いに心を開いて、話を聞き合っている姿でした。

この経験をを通して、斎藤さんは、他人の評価を気にするあまり、「分からないので教えてください」という言葉が出てこなかったことに気づきました。それは、自分の中にある、なんでも一人でできるという「傲慢さ」が原因で、謙虚さが足りなかったことに思い至ったそうです。そして、それに気づかせてくれたのは、アルコール依存症の患者さんたちが、お互いに心を開いて、話を聞き合っている姿でした。

この経験をを通して、斎藤さんは、他人の評価を気にするあまり、「分からないので教えてください」という言葉が出てこなかったことに気づきました。それは、自分の中にある、なんでも一人でできるという「傲慢さ」が原因で、謙虚さが足りなかったことに思い至ったそうです。そして、それに気づかせてくれたのは、アルコール依存症の患者さんたちが、お互いに心を開いて、話を聞き合っている姿でした。

- 須藤 花 (筑西市立関城西小学校3年)
七川 翔 (茨城大学教育学部附属小学校3年)
川崎 輝 (茨城大学教育学部附属小学校1年)
橋本 あづさ (小栗玉市立玉里学園義務教育学校4年)
鈴木 龍 (坂東市立長須小学校6年)
中久木 千 (坂東市立長須小学校4年)
二橋 直輝 (つくば市立竹園西小学校6年)
工藤 理央 (つくば市立竹園西小学校6年)
菅井 葉月 (県立鉾田第一高等学校附属中学校2年)
飯島 煌一 (県立鉾田第一高等学校附属中学校3年)
津田 晴輝 (茨城キリスト教学園中学校1年)
田村 優衣 (県立鉾田第一高等学校附属中学校3年)
横田 村叶 (県立鉾田第一高等学校附属中学校3年)
山本 千亜希 (県立水戸第二高等学校2年)
横田 陽夏 (県立水戸第二高等学校2年)
三島 菜花 (県立日立第一高等学校1年)
橋本 紗季 (大成女子高等学校1年)
福森 葵 (県立水戸第二高等学校2年)
【第15回記念学校賞】
つくば市立高崎中学校
【優秀学校賞】
坂東市立長須小学校、つくば市立竹園西小学校、県立鉾田第一高等学校附属中学校、筑西市立関城西小学校
【学校奨励賞】
県立古河中等教育学校、水戸市内立原中学校、茨城キリスト教学園中学校
主催 茨城新聞社
協力 茨城県教育研究会
後援 文部科学省
茨城県
茨城県教育委員会